

福祉でつながる。ひびきあう。新しい明日へ

Chidori

認知症バリアフリー宣言

Vol.
17
2023
Spring



グループホーム高山ちどり(奈良県生駒市)

特集

認知症バリアフリー宣言!!

認知症当事者の「自立できる力」を高め、
住み慣れた地域で「自分らしく」生活するための
支援をします。



大阪府	幼保連携型認定こども園 智鳥保育園 〒571-0026 大阪府門真市北島町14番28号 最寄駅 地下鉄長堀鶴見緑地線「門真南駅」 TEL (072) 881-3755 FAX (072) 881-9505	幼保連携型認定こども園 東野田ちどり保育園 〒534-0024 大阪府都島区東野田町4丁目15番20号 最寄駅 JR環状線・東西線・京阪本線「京橋駅」 TEL (06) 6358-1415 FAX (06) 6358-1485
	ナーシングホーム 智鳥(特養、SS、DS、HH、訪問看護) 〒571-0026 大阪府門真市北島町12番3号 最寄駅 地下鉄長堀鶴見緑地線「門真南駅」 TEL (072) 881-8201 FAX (072) 881-8115	幼保連携型認定こども園 城東ちどり保育園 〒536-0021 大阪府城東区織紡3丁目6番33号 最寄駅 地下鉄中央線「深江橋駅」 TEL (06) 6167-3755 FAX (06) 6167-3855
	茨田大宮地域在宅 サービスステーションちどり(HH、DS、プランチ) 〒538-0031 大阪府鶴見区茨田大宮3丁目8番33号 最寄駅 地下鉄長堀鶴見緑地線「門真南駅」 TEL (06) 6914-7711 FAX (06) 6914-7100	大阪市立東中本保育所 〒537-0021 大阪府城東区東中本2丁目3番16号 最寄駅 地下鉄中央線「緑橋駅」 TEL (06) 6981-0208 FAX (06) 6981-0130
	くすのき介護センター市役所前 くすのき介護相談センター 〒571-0055 大阪府門真市中町11番96号 最寄駅 京阪本線「門真市駅」・「古川橋駅」 TEL (06) 6902-8666 FAX (06) 6902-8663	大阪市立北恩加島保育所 〒551-0031 大阪府大正区泉屋7丁目14番2-108号 最寄駅 地下鉄長堀鶴見緑地線・JR「大正駅」 TEL (06) 6553-5521 FAX (06) 6553-5521
	大和田ちどり(小規模多機能ホーム・地域密着型認知症通所介護) 〒571-0079 大阪府門真市野里町26番17号 最寄駅 京阪本線「大和田駅」 TEL (072) 883-0071 FAX (072) 883-0086	幼保連携型認定こども園 中之島ちどり保育園 〒530-0045 大阪府北区天神西町3番16号 最寄駅 地下鉄谷町線「南森町駅」・JR東西線「大阪天満宮駅」 TEL (06) 6362-3755 FAX (06) 6362-3766
	サテライト型サンハウス北島(デイサービス) 〒571-0026 大阪府門真市北島町2番16号 最寄駅 地下鉄長堀鶴見緑地線「門真南駅」 TEL (072) 887-0117 FAX (072) 887-0118	御堂筋本町ちどり保育園 〒541-0058 大阪府中央区久宝寺町2丁目6-7 最寄駅 地下鉄御堂筋線・中央線「本町駅」 TEL (06) 6282-3888 FAX (06) 6282-3800
	門真第4地域包括支援センター(業務委託) 〒571-0026 大阪府門真市北島町12番3号 最寄駅 地下鉄長堀鶴見緑地線「門真南駅」 TEL (072) 887-6540 FAX (072) 887-6541	新福島ちどり保育園 〒553-0006 大阪府福島区吉野1丁目5-1 最寄駅 JR東西線「新福島駅」・大阪環状線「野田駅」 TEL (06) 6136-8660 FAX (06) 6136-8645
	大阪市鶴見区西部地域包括支援センター(業務委託) 〒538-0051 大阪府鶴見区諸口6丁目1番13号 最寄駅 地下鉄長堀鶴見緑地線「横堤駅」 TEL (06) 6913-7878 FAX (06) 6913-7888	走谷ちどり保育園 〒573-0063 大阪府枚方市走谷1-1-10 最寄駅 京阪本線「光善寺駅」・「枚方公園駅」 TEL (072) 846-2835 FAX (072) 800-1750
	ケアホームちどり(特養、SS、DS) 〒538-0051 大阪府門真市柳田町15番23号 最寄駅 京阪本線「古川橋駅」 TEL (06) 6991-8361 FAX (06) 6991-8362	幼保連携型認定こども園 あまのみやちどりこども園 〒576-0031 大阪府交野市森南2丁目15番1号 最寄駅 京阪交野線「河内森駅」・JR学研都市線「河内磐船駅」 TEL (072) 892-1351 FAX (072) 892-1460
兵庫県	宝塚ちどり(特養、SS、DS、HH、GH) 〒665-0047 兵庫県宝塚市亀井町10番30号 最寄駅 阪急今津線「逆瀬川駅」・「小林駅」 TEL (0797) 73-0880 FAX (0797) 73-0890	門真市地域子育て支援センター(業務委託) 〒571-0064 大阪府門真市御堂町14-1 最寄駅 京阪本線「古川橋駅」 TEL (06) 6904-8601 FAX (06) 6904-8602
	中山ちどり(特養、SS、ケアハウス、DS、HH、GH、訪問看護、小規模、定期巡回) 〒665-0847 兵庫県宝塚市中山桜台1丁目7番1号 最寄駅 阪急宝塚線「中山観音駅」・JR宝塚線「中山寺駅」 TEL (0797) 82-0201 FAX (0797) 82-2525	川面ちどり保育園・川面ちどり保育園放課後児童クラブ 〒665-0842 兵庫県宝塚市川面3丁目24番13号 最寄駅 JR宝塚線・阪急宝塚線・今津線「宝塚駅」 TEL (0797) 26-8156 FAX (0797) 26-8157
	宝塚市立養護老人ホーム 福寿荘(外部特定) 〒665-0825 兵庫県宝塚市安倉西3丁目1番5号 最寄駅 阪急今津線「逆瀬川駅」 TEL (0797) 86-3096 FAX (0797) 86-7929	川面ちどり放課後児童クラブ(業務委託) 〒665-0842 兵庫県宝塚市川面5丁目10-10 最寄駅 JR宝塚線・阪急宝塚線・今津線「宝塚駅」 TEL (0797) 81-1555 FAX (0797) 81-1555
	宝塚米谷ちどり(ケアローン) 〒665-0831 兵庫県宝塚市米谷2丁目4-24 最寄駅 阪急宝塚線「清荒神駅」 TEL (0797) 87-8211 FAX (0797) 87-8212	御殿山ちどり放課後児童クラブ 〒665-0841 兵庫県宝塚市御殿山2丁目1-1 最寄駅 阪急宝塚線「宝塚駅」・「清荒神駅」 TEL (0797) 62-6933 FAX (0797) 62-6933
	神戸垂水ちどり(特養、SS、ケアハウス、DS) 〒655-0016 神戸市垂水区高丸6丁目7番2号 最寄駅 JR山陽本線「垂水駅」・山陽電車「山陽垂水駅」 TEL (078) 786-3755 FAX (078) 708-5037	神戸元町ちどり保育園 〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北長狭通8丁目5番5号 最寄駅 神戸高速「西元町駅」・JR神戸線「神戸駅」 TEL (078) 341-5580 FAX (078) 341-5581
奈良県	高山ちどり(特養、SS、DS) 〒630-0101 奈良県生駒市高山町8030番地 最寄駅 近鉄けいはんな線「学研北生駒駅」 TEL (0743) 70-1832 FAX (0743) 71-2083	たかとりちどり保育園 〒654-0026 神戸市須磨区大池町5-10-15 最寄駅 JR神戸線「鷹取駅」 TEL (078) 732-2500 FAX (078) 732-2520
	高山ちどり別館(特養、SS) 〒630-0101 奈良県生駒市高山町8030番地 最寄駅 近鉄けいはんな線「学研北生駒駅」 TEL (0743) 70-1011 FAX (0743) 71-2083	幼保連携型認定こども園 いちぶちどり保育園 〒630-0222 奈良県生駒市沓分町83番87号 最寄駅 近鉄生駒線「一分駅」 TEL (0743) 76-2400 FAX (0743) 76-2401
	萩の台ちどり(特養、SS、DS) 〒630-0224 奈良県生駒市萩の台3丁目1番8号 最寄駅 近鉄生駒線「萩の台駅」 TEL (0743) 76-2211 FAX (0743) 76-2550	グループホーム沓分町ちどり サポートハウス沓分町ちどり 〒630-0222 奈良県生駒市沓分町83番2 最寄駅 近鉄生駒線「一分駅」 TEL (0743) 76-1000 FAX (0743) 76-1001

Contents

- 4 特集
認知症バリアフリー宣言
認知症当事者の「自立できる力」を高め、住み慣れた地域で「自分らしく」生活できるための支援をします。
- 9 地域の子育て支援活動
- 10 Chidori News
- 12 くんがいしょう
- 14 私の駆け出し時代・わたしのパワーフレーズ
- 15 広げようちどりの輪・編集後記



cover story
グループホーム高山ちどり (奈良県生駒市)

グループホーム高山ちどりは、今年3月にオープンを迎えました。居室は全個室とし、一人一人の生活を大切にします。ご利用者が認知症になっても自分の部屋が分かるように扉の色は交互に色合いを変えています。ご利用者の笑顔が絶えることがない施設に行きたいと思っています。

2022内定式
～コロナ禍での内定式～

2022(令和4)年10月1日、今年度の晋栄福祉会内定式を行いました。コロナ禍以前のように盛大な催しとはいきませんが、3年ぶりの対面による内定式となりました。直近まで感染状況を見ながらの判断でしたが、無事開催することができました。内定者の皆様も若干名の欠席はありましたが、多くの方に参加いただきました。やはり同期となる仲間たちと実際に顔を合わせ、声を交わされる様子を見てみると、オンラインにはない体験を提供できて、本当に良かったと思います。

式次第は、開会の言葉から、理事長の挨拶(法人の歴史と様々な事業展開に至った経緯の紹介)へ。内定証書授与では、例年より人数が絞られていたので、内定者一人一人から言葉をいただいたのが新鮮でした。その後、先輩からの言葉、アイスブレイク研修を2題。最後に江川総合園長より、締めめの挨拶がありました。今回は『エッセンシャル思考』という書籍の紹介で、本当に重要なものを見極め、最高のパフォーマンスを発揮するという内容でした。ご興味のある方は是非ご一読ください。

その後場所を移して、各エリアの総合施設長も加わり、懇親会(昼食会)を行いました。この日の 식사가、内定者の皆様にとって忘れがたい良き思い出となることを願っています。



広報誌「Chidori」とは...

- ①職員参加型のコミュニケーション誌です。飛び込み参加、いつでも大歓迎。
- ②地域の皆様、ご利用者・ご家族も楽しめる誌面づくりを目指します。
- ③晋栄福祉会の「理念」や「事業内容」など、法人の根幹となる考え方を丁寧にお伝えします。

グループホーム高山ちどり竣工

2023(令和5)年3月、認知症対応型共同生活介護施設『グループホーム高山ちどり』を開設しました。同敷地内には、2008(平成20)年6月、当法人で奈良エリア最初の特別養護老人ホーム『高山ちどり』を開設。2019(平成31)年1月には『高山ちどり別館』を開設しており、今回で3つ目の施設のオープンとなります。

グループホーム高山ちどりもまた、法人介護部門の『7つの運営方針』に則り、[365日24時間]、[どなたにも利用]でき、[利用者主体・利用者本位]を旨とし、[利用者の権利を守り]ながら、法人一体となって[総合的]、[先駆的・先進的・専門的]サービス及び、[安心の介護・看護]の提供に努めて参ります。

生駒市高山町は“茶筌”の町と言われ、和の文化を特長とする地域です。新施設では、廊下の天井を木目にするなど、強く“和風”を意識したデザインを取り入れました。また、ご利用者にゆったりと過ごしていただくため、リビングルームを広く設けたほか、各部屋やトイレの扉を色分けし、ご利用者が判別して自分で行動できるよう工夫しています。グループホームでは、要支援2以上の方が利用できますが、今後、更に要介護度が高くなった場合、ご利用者の環境変化や負担の少ない、隣接の特養に入所することができるよう、連携を図ってまいります。

地域の方が気軽に訪問いただける、親しみやすい環境づくりを進めます。ご利用者や職員が、自然と地域に溶け込めるようなサービスを重視し、コロナ禍にも万全の対策をしながら積極的に活動します。公園や施設訪問、日常の買い物に出かけたり、地域と交流を重ねたりすることで、ここが誰でも馴染める『大きな家』となれるように邁進して参ります。



いよいよリニューアルオープン!!
ナーシングホーム智鳥

本誌第16号で紹介しておりました、当法人最初の介護施設「ナーシングホーム智鳥(平成5年6月オープン)」もいよいよ3月末にユニット型特別養護老人ホームとしてリニューアルオープンいたします!! リニューアル後の定員は特別養護老人ホーム80名(現在50名)、ショートステイ20名(現在10名)、合計100名へと拡大いたします。また、法人の新施設で採用している見守りシステム「ケアサポートシステム」の導入(天井のセンサーが入居者の動きを感知し、ケアスタッフのモバイル端末に通知する仕組み)で、万一転倒などがあっても、すぐさま駆けつけことができ、その前後の録画から診断・治療に役立てることも可能です。ご利用者にも、スタッフにもやさしい環境になると考えています。

その他、施設1階には『地域交流スペース』を設け、近隣の方々との交流会や勉強会に利用する予定です。現在進めている“ゆめ伴プロジェクトin門真”などの地域活動との連携に活用できると考えています。これからも地域の皆さんに伴って歩む『拠点』となれるように頑張っています。



認知症バリアフリー宣言

認知症当事者の「自立できる力」を高め、住み慣れた地域で「自分らしく」生活できるための支援をします。



晋栄福祉会の
認知症バリアフリー宣言
2022年3月23日
詳しくはホームページで
<https://www.chidori.or.jp/#dementia>



具体的取組

1 「人材の育成」

法人の研修委員会において実施している新人職員から中堅、管理職への研修をはじめ、介護事業に関わる事務職員を含む全職員への認知症介護基礎研修を必須化し、早期に修了100%を達成することを目標とします。

更に、実務者研修などの上級研修を標準化し、重層的に認知症介護人材の育成を進めます。社内研修制度としても社会福祉協議会と連携し、キャラバンメイトの育成促進や認知症サポーター養成講座などを開催して認知症ケアのサポートを行える人材を育成していきます。



2 「地域連携」

地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と地域住民・行政との連携、法人内委員会活動を通じ、認知症当事者の権利擁護や啓発を進めていきます。また、認知症当事者が自分らしく、住み慣れた地域で生活できるように法人各事業所の専門職やキャラバンメイトが、地域住民と連携して、認知症ケアサポートやボランティア活動による支援を進めていきます。現在、定期的にカフェを開催し、ご家族同士が情報共有したり、悩みを相談できる場を設けています。また、認知症予防を含む介護技術講習会を実施し、子どもから大人まで幅広く認知症サポーターを養成していきます。



3 「社内制度」

職員の認知症家族への対応では、認知症介護サービス事業所を相談窓口として介護離職を防ぎます。職員が認知症となった場合でも、地域包括支援センターや認知症初期集中支援チームと連携し、早期発見・早期治療に取り組むとともに、法人内の専門職が相談対応致します。

また就労継続を基本とし、雇用形態の変更など、認知症になっても社会に参加できるよう対応していきます。



4 「環境整備」

法人介護事業所における認知症利用者の今後の大幅な増加を見越し、見守りシステムなどICTの導入による、ご利用者の安全と自立的行動を促す環境を整備するとともに、オンラインによる地域・ご家族との連携、情報共有を強化し、認知症当事者のより良い暮らしの実現を図ります。

職員が、オレンジリングやオレンジサポーターカードを携行し、地域の方の理解を深めるとともに、各事業所に認知症サポーターステッカーを掲示し、認知症当事者や地域住民の方々が安心して相談できる窓口として啓発活動を行っていきます。



認知症バリアフリー宣言とは

認知症は誰でもなりうる脳の病気によって起こります。年齢が高くなるほど認知症の有病率は上がり、2025年には高齢者の約5人に1人が認知症になると予測されています。

今後ますます増えていくと予想される認知症の人を社会全体で支えていく仕組みづくりは国を挙げての急務となっており、2019年4月に官・民約100にのぼる団体が「日本認知症官民協議会」を立ち上げ、幅広い取組の推進を目指しています。

認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で普通に暮らし続けていけるよう、生活のあらゆる場面で障壁を減らしていく認知症バリアフリーの取組は、その大きな柱の一つです。

2022年度からスタートする認知症バリアフリー宣言は、企業・団体の皆様に認知症バリアフリー推進に向けての方針や方向性を示していただき、それを「見える化」することによって、**認知症の人やその家族の方々にとって安心して店舗やサービス・商品を利用できるなどの環境を提供するとともに、企業・団体の取組を推進することにより、認知症バリアフリー社会の機運を醸成することを目的としています。**



出典：認知症バリアフリー宣言ポータル <https://ninchisho-barrierfree.jp/>

晋栄福祉会の認知症バリアフリー宣言

社会福祉法人晋栄福祉会は、認知症当事者の「自立できる力」を高め、住み慣れた地域で、「自分らしく」生活できるための支援をします。認知症があっても住み慣れた地域で尊重されながら生活ができる「地域共生社会」の構築を目指します。孤立を予防し地域で生きがいを持って活動できる場づくりを行っていきます。

認知症バリアフリーへの取組みとして、次の事項(①～④)に継続的に実践することをすべての利用者様、地域の人々と法人職員にお約束いたします。

この宣言は、晋栄福祉会の全ての事業所を対象としています。

ゆめ伴プロジェクト

晋栄福祉会(門真地区)が参画する、ゆめ伴プロジェクトin門真が、いのち輝くツルナリエ～2022冬～「折り鶴でつながろう!笑顔の輪!」を開催しました。各施設や在宅をつなぎ、大阪万博に近いATC会場もつなぎました。

公式キャラクターミyakumaにも登場してもらい、クイズをしたり歌を楽しんだりして、みんなで繋がりあえる楽しい時間を過ごしました。

認知症になっても輝けるまちづくりを目指して、今後も楽しい活動を企画していきたいと考えています。



ちどりカフェの開催

中山ちどり北館1階、喫茶ちどりで、『ちどりカフェ』をオープンしました。認知症が気になった方、認知症と診断された方、また自分の家族が認知症になった方など、気軽に相談したり、交流を図ったり、安心して過ごすことができる居場所として使って頂けます。開催日時は毎月第二土曜日13:30～15:00までです。

お茶菓子もご用意しています!



9月3日(土)
東中本保育所で、東成区社会福祉協議会の方から、認知症サポーター養成講座「認知症について知ろう」(60分)を説明していただきました。(わかりやすい動画も見ました。)
研修後、職員10名に「わたしは認知症サポーターです」の証明カードをいただきました。

保育部門の認知症研修

11月29日(火)13:30～15:00
御堂筋本町ちどり保育園で、認知症サポーター養成講座を受講しました。大阪市中央区社会福祉協議会の見守り支援ネットワークの方にお越しいただき、講座を開催していただきました。参加者8名に、認知症サポーターカードを、保育園にステッカーをいただきました。



晋栄福祉会の認知症バリアフリー宣言 関連活動

晋栄福祉会は令和3年3月、日本認知症官民協議会による「認知症バリアフリー宣言」事業に参画する、全国18企業・団体(キックオフ時)の一つに選ばれました。

介護部門の認知症研修

神戸垂水ちどりでは、認知症サポーター養成講座を定期的に開催しています。

5月19日にはリーダークラスを対象とした講座を開催しました。以後、外国人介護職や地域にお住まいの方にもお声掛けし、4回、講座を開催してきました。神戸市のキャラバンメイトの協力を得て、誰にも分かりやすい内容にしています。受講者から、新たなキャラバンメイトも誕生しました。



高山ちどりで、フォレスト地域包括支援センターから講師をお招きし、75名が参加して、認知症サポーター養成講座を開催しました。講義資料に沿って、丁寧に説明していただき、途中でグループワークも挟みました。

研修後、受講者全員が認知症サポーターカードをいただきました。

環境整備

- ・認知症ステッカーによる、支援窓口の表示(各施設)
- ・認知症サポーターカードやオレンジリングによる啓発活動(全職員)
- ・見守りシステムの導入(ケアホームちどり・高山ちどり別館など)
- ・ラインを利用したご家族への近況報告(GH壱分町ちどりなど)
- ・ユニバーサルデザインの案内表示や、扉のカラー分けなどの導入(神戸垂水ちどり・GH高山ちどり)などなど、法人全体で、認知症バリアフリーに向けた環境を順次整備して行きます。





地域子育て支援活動



晋栄福祉会の各園で、
地域の子育て支援に取り組んでいます。

晋栄福祉会の各保育園・保育所は、保護者に対し、子育て相談や子育て情報の提供、講座・講演会を通して子育ての悩みに対応したり、知識を得る機会を提供しています。一方、地域の方に対しては、園庭や保育室を開放し、子ども同士、保護者同士が交流する機会を作っています。

具体的な活動としては、

- 子育て相談（園の職員による）
- 子育て講座・講演会の開催
- 保育室・園庭などの施設開放
- 父親と子どもの交流の場の提供
- 子育てサークルなどの支援
- 体験保育

などが上げられます。

特に認定こども園は、「地域の子育て支援を担う」という理念を掲げ、子育て支援に熱心です。また、各園の支援活動は、年を追って盛んになってきており、保護者のニーズを受けて、内容に特色を出したり、活動の絞り込みも進んでいます。

これらの取り組みは、園児増につながることもありますが、それよりも、保護者や地域の方との関係性を強化し、地域の評価を高めることに貢献できていると感じています。

今、子育て奮闘中の皆様、子育てに悩みや不安をお持ちの皆様、ぜひ地域の保育園・保育所にお気軽にご相談ください。また各施設では楽しい催しを企画してお待ちしていますので、ご参加をよろしくお願いいたします！



あまだのみやちどりこども園

あまだっ子ひろばを開催

親子でリース製作や体操をしました。おみやげに『おばけかぼちゃの帽子』を被せてあげました。



室内開放（ホール）

ブロック・くるま遊び・絵本・パズルなどをして遊びました。看護師さんから「歯」についての勉強もしました。



東野田ちどり保育園・城東ちどり保育園

ベビーふれあい教室

1か月～6か月の赤ちゃんとお母さんに、保健師・助産師・栄養士・保育士による育児教室を行いました。



パパっこフェスタ

コロナで3年ぶりの開催となりましたが、地域の未就学の父子をお招きし、ふれあい遊びをしました。



いちぶちどり保育園

子育て支援講座を開催

4月～9月報告

- 4月『こいのぼりを作ろう』
- 6月『かえるを作ろう』
- 8月『夏祭りを楽しもう』
- 9月『ベビーマッサージ』

等々、毎月テーマを決めて開催しました。

毎回定員いっぱいのご参加をいただき、笑顔溢れる一時を過ごされました。



智鳥保育園

パパといっしょにあそぼう！

小倉げんきさんの曲に合わせて、ふれあい体操や特製のスケッチブックシアターで楽しみました。



ちどりであそぼう！

毎月一回「遊びの広場」を提供する活動を行っています。今回は『親子ふれあいあそび』をしました。



認知症バリアフリー宣言

晋栄福祉会の認知症バリアフリー宣言関連活動(つづき)

認知症サポーターキャラバン・メイト活動

認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、自分のできる範囲で活動する「応援者」のことです。



あまだのみやちどりこども園に、交野市社会福祉協議会の方々が9名来園され、5歳児ゆめ組(44名)の子ども達に「認知症」についてのお話をしてくださいました。

はじめのうちは緊張していた子ども達ですが、スライド絵本を使ったお話に引き込まれ、真剣に聞いていました。その後〇×クイズで振り返りをする全問正解でした！最後に、交野市社会福祉協議会のマスコットキャラクター“にじ丸ちゃん”が登場すると、子ども達は大喜び。一緒に記念撮影をしてタッチしてもらいました。子ども達は「認知症キッズサポーターカード」をいただき、サポーターになりました。

後日、4歳児そら組(44名)も「認知症リトルキッズサポーター養成講座」に参加しました。少し難しかったようですが、手遊びや絵本を通して、わかりやすく教えていただき、最後は“にじ丸ちゃん”も登場して大喜びでした。

コロナが落ち着いたら、学びを活かして、地域のお年寄りの方たちと交流しようと思います。

神戸垂水ちどりには、2名のキャラバンメイトが在籍し、外部の講師とともに地域住民にも参加を呼びかけ、認知症サポーター養成講座を開催してきました。

講座では、次の3つの視点を重視してきました。一つは、当法人の一員としての視点で、認知症サポーター養成講座と法人の事業計画「それぞれのバリアフリー宣言 ～行動計画と実践～」との関係を確認します。二つ目は、神戸市民としての視点です。市民としてできることや利用することができる神戸市の認知症施策を確認していきます。そして三つ目は、個人、家庭人としての視点です。個人を取り巻く社会の状況とそれに伴う情報を身近に感じてもらい、家族、身近な知人とかかわりの中で、研修で得た知識が役に立つときがあることに気付くことです。

講座を通してあらためて、様々な知識や情報を共有する大切さに気付き、実際の場面でそういった知識や情報につながる事が分かりました。専門職や認知症サポーターが、認知症の方やそのご家族と知識、情報をつなぐことが大事であると考え、今後もこの講座を進めていく予定です。





城東ちどり保育園

「生きる力」を育てる

5歳児が運動あそびに取り組んでいました。上手にできる子もいます。なかなかうまくいかない子もいます。でも、子ども達はみんな一生懸命です。上手にできる子はよりかっこよく、リズミカルにできるように。苦手な子は一人一人、自分が気をつけなければいけないことを意識してチャレンジしていきます。

保育教諭は子ども達一人一人を励ましなが、そして誉めながら、丁寧に指導しています。もちろん全員が上手にという思いはありますが、城東ちどり保育園では子ども達ができないことにチャレンジしている姿やよりかっこよくしようと工夫している姿、友だちの頑張りを認めている姿に大きな価値を見出しています。

跳び箱を跳び越すことや鉄棒で逆上がりをすること自体は、子どもが体操選手にでもならない限り、これからの長い人生においてほとんど役に立つことはありません。しかし、自分ができないことに何度も何度も挑戦し、どうすればうまくできるようになるかを考え、あきらめずに粘り強く取り組んだ経験は子ども達の「生きる力」として、プラスの効果をもたらすことは間違いのないと思います。



東中本保育所

「子どもの未来に向けて」

保護者の方との朝の挨拶から始まり、「いってらっしゃい」と笑顔で送り出し、「おかえりなさい」と出迎え、安心して子どもと一緒に帰られる姿を見送ると、充実感が得られます。

入所当初、大泣きしていた子どもも気の合う友だちや好きな遊びを見つけ、徐々に遊びに夢中になっていきます。夕方は異年齢での遊びが中心、年上の子は遊びのお手本になり、年下の子どもへの優しいまなざしが輝いています。互いに刺激し合い、自分の意思を伝えたり、相手の気持ちを汲み取ろうとしたりしながら、他者を尊重する心を養います。子どもたちは1日の大半を保育所で過ごしています。何を一緒に楽しもうか、どんなことをしたら成長につながり、心健やかに育つだろうかを考えています。成長の喜びをみんなで共有できる瞬間がとても楽しくやりのあることです。

子どもと保護者と貴重な時を共有し、子どもの未来に向けて大きな役割を担うことは私たちの意義ある学びにもなっています。これからも子どもたちの笑顔を原動力に保育をしていきたいと思っています。



御堂筋本町ちどり保育園

体を動かし、心も体も大きく育む

御堂筋本町ちどり保育園は、大阪市中央区という都心にあるビル型(6階建て)の保育園で、屋上園庭で遊んでいます。屋外での活動も積極的に取り入れ、子どもたち一人ひとりの健康な体作りを目指して保育を行っています。毎朝全学年で近くの公園に行き、外遊びを行います。公園では自由に遊ぶだけでなく、異年齢での交流を深めることで小さなお友だちへの優しさや、お兄さんやお姉さんへの憧れの気持ちをもてるようにしています。

子どもたち自身で遊びを考え工夫することで、集団での関わりへと繋がっています。また、年長のゆめ組になると春夏秋冬の年4回「あるこう会」と題して、大阪城公園まで歩いたり、長居公園で思いきり体を動かしたりして遊んでいます。その他にも、異年齢で季節毎に遠足を行います。今年度は、小学校の体育館をおかりして、第1回目となる運動会を開催しました。都会のと真ん中でも自然の温かみを感じ、体を十分に動かし心も身体も大きく育って欲しいという願いのもと保育を行っています。



中山ちどり

大根焼きイベント開催!

「あれ? なんかいとお出汁の香りしない?」と、ワクワクしながらスタッフが向かった先は地域交流スペースの『喫茶ちどり』の台所。そこで行われていたのは、中山ちどりの冬の風物詩「大根焼き」。管理栄養士と食事サービス委員会のスタッフが中心となって、ご入居者とスタッフの無病息災を願い、振る舞いを行いました。休憩中の施設スタッフも、外出から戻ってきた在宅スタッフも、各々のタイミングで来場し、お腹も心も温まりました。

秋には屋上で育てたサツマイモをご入居者と一緒に収穫し、焼き立てのスイートポテトを作るというイベントもあります。中山ちどりでは、『普通の生活』を施設理念とし、ご入居者もスタッフも共に楽しめる家庭的なイベントを企画しています。部署の垣根を越え、風通しの良い働きやすい環境づくりが、ご利用者へのサービスの質の向上につながると考えています。



ケアホームちどり

『ケアホーム神社』で初詣

ケアホームちどりの行事委員会では、近隣の神社に初詣を計画していましたが、昨年末、大阪モデル(コロナの感染状況指標)が「赤信号」となったため、再検討を余儀なくされました。

出来ることを考えた結果、職員が鳥居や賽銭箱を作成し、施設内で初詣を体験していただくことになりました。といっても初めての鳥居作り。何から始めていかわからず、インターネットを見たり、知恵を出し合ったりの苦勞の末にやっと完成。この手作り神社に、何と殆どのご利用者が、三が日にお参りしてくださいました。「何を願ったらいいかな。健康? お金?」「昔はよく神社に行ったな。懐かしい」など反応は様々。工夫次第で、想像以上に満足いただけることが分かりました。気軽に外出できることが最良ですが、今後も施設内で出来ること・楽しんでいただけることを膨らませていきたいと思っています。



福寿荘

種まきから収穫まで

宝塚市立養護老人ホーム福寿荘は、平成25年4月より、宝塚市から当法人が指定管理者の指定を受けて運営を行っている法人内で唯一の養護老人ホームです。

入所されているのは、原則として65歳以上で、環境上の理由や経済的理由でご家庭での養護を受けることが困難な方々です。

ここでは要介護認定を受けている方、いない方を含め、様々な方々が生活を送られており、夏祭りや忘年会、新年会等の行事の他、クラブ活動も盛んです。特に敷地内の農園を利用した農作業では、種まきから収穫まで、職員と入所者が一緒に作業を行い、コミュニケーションを図れる絶好の機会となっています。ここで収穫した野菜は、厨房で調理され、入所中の皆様のお食事として提供されます。私たちは、これらの活動を通し、福寿荘のご利用者が充実した生活を送れるよう、サポートしてまいります。



「食育」「絵本シアター」 ～小さいころからの体験を大切に～

新福島ちどり保育園

新福島ちどり保育園では、「食育」「絵本の読み聞かせ」を大切にしています。

「食育活動」では、年長児が屋上園庭できゅうりやナスなどの夏野菜を育て旬の食材に触れられるようにしています。また、命の大切さを学べるよう調理士さんと一緒に「サバの解体ショー」を行っています。包丁が入ると「血が出た」と驚きながらも興味津々で覗き込む子どもたち。目や口などの部位があることに気づき、「死んでくれたからこそ私たちの生きる力につながる」と、子どもながらに給食の食材を見て感謝の気持ちが芽生えていました。

絵本の読み聞かせでは、毎月一回全児が集まり「絵本シアター」を行っています。絵本は想像力や感性、絵本の世界に触れることで知的好奇心が育ちます。

これからも子どもたちの思いを大切に、保護者の皆様と一緒に成長を見守ってまいります。



昔遊びブーム!

神戸元町ちどり保育園

神戸元町ちどり保育園の幼児(3～5歳児)クラスでじわじわと広がっているのが古き良き昔遊び。日々の保育の中で昔のことが話題になり、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんが子どもの時にしていた遊びを覚えてもらおうということで、やってみたとこ楽しくハマっています。

「あんたがたどこさ」歌に合わせてジャンプしたり、お手玉を隣の人に回したり。「さ♪」の 때가ポイントです。

「ゴム跳び」保護者の方や園長、主任が子どもの時にしていた遊びを直伝。若い保育士たちは「え～、こんなん知らん」「めっちゃ楽しい!」と、先頭立ってチャレンジ。

「独楽回し」部屋に貼ってある名人表を見ながら、次々と新しい技をクリア。友だちに習ったり教えたり励ましあったりしています。

「けん玉」5歳児を中心に「お家でも練習してるで」「頑張るわ」と、繰り返し挑戦中。年下の子どもたちは憧れのまなざしで見えています。

大人が子どもの頃楽しかった遊びは、今の子どもたちもすぐに夢中。保護者の方も、保育士も童心に返り「一緒に遊ぶって楽しい!」を実感しています。



「公園で楽しく遊んで」

中之島ちどり保育園

大都会の中心部にありながらも、緑あふれる中之島公園まで歩いて10分。広々とした扇町公園までは20分。そして歴史が詰まった大阪城公園には歩いて35分。4・5歳児たちは、週1回以上公園散歩を楽しんでいます。

歩くことは五感を刺激し、子どもたちの脳の発達を促します。また、異年齢児での交流はコミュニケーション能力を広げると共に、外で身体を動かして遊ぶことで自律神経が活発に動き心の安定に繋がります。コロナ禍であっても安全対策を行いながら積極的に外に出かけていきたいと思っています。

公園ではリズム的な遊び・体育的な遊び・ゲーム遊び・自然と戯れる遊びなど子どもたちも職員も、毎回、目一杯楽しんでいます。

これからも、地域の中で心に刺激をたくさんもらいながら元気にすくすくと育ってほしいと思っています。



なみはや高校と交流しています

ナーシングホーム智鳥

ナーシングホーム智鳥では2022(令和4)年10月27日(木)、門真市内にある大阪府立門真なみはや高校の福祉科2年生とオンラインで交流しました。生徒の皆さんが考えたクイズに答えたり、一緒に音楽に合わせた体操を行ったりしました。ご利用者もオンライン交流会はコロナ禍以後何度も体験されているので、戸惑わずに笑顔で参加されていました。生徒の皆さんには高齢者の方を大切にすることを心遣いがあり、ご利用者は孫を見るような温かい眼差しで画面をみておられました。なみはや高校の生徒の皆さんとご利用者はゆめ伴プロジェクトでの文通企画や、介護や福祉の専門職についてお話しする交流会などでオンラインでつながっています。早くコロナが終息し、ご利用者と生徒の皆さんが直接会って交流を図れるようになることを心待ちにしています。



『待ちに待ったお餅つき!!』

萩の台ちどり

昨年末に、施設として久しぶりに大々的に餅つき大会を開催しました。新型コロナが拡大して以後ここ2年は館内でフロアごとに小規模で行っていましたが、今回はご入居者に施設玄関前にお集りいただき、外気に触れながら開放的な雰囲気の中で間近に餅つきの様子をご覧いただくことができました。

目の前で繰り上げられる昔ながらの臼と杵を用いた餅つきの迫力に、皆さま熱い視線を送られ、「なつかしいわ」と仰ったり、「よいしょ!」と掛け声を出しながら手拍子されたりしました。中にはご自分で杵を持ってお餅をつかれる方もおられるなど、思い思いに季節の風物詩を楽しまれた様子でした。餅つき中に、施設前を通られる近隣の方が足を止め、餅つきの様子を興味深そうにご覧になる場面もあり、地域の方にも行事の雰囲気を感じていただけたのではないかと考えています。



介護サービスの第三者評価を受けました

ケアホーム神戸垂水ちどり・ケアハウス神戸垂水ちどり

ケアホーム神戸垂水ちどりとケアハウス神戸垂水ちどりでは、2023(令和5)年2月13日から15日の3日間に第三者評価事業を受審しました。

第三者評価とは、外部の評価機関が公正・中立の立場で施設が提供するサービスを評価し、その結果をわかりやすく開示する仕組みです。これにより、これから介護サービスを利用しようと考えている方の「施設は入居してみないと良いか悪いか分からない」という不安を軽減していただけたと考えています。

また、第三者評価を受けることで、神戸垂水ちどりが今まで行ってきたサービスを振り返ることができます。そして、ご入居者やご家族からの意見も反映して、職員一丸となって、介護等、サービスの質を高めることにつなげることができます。

神戸垂水ちどりは開設から約3年半となりますが、コロナ禍によりそのほとんどの期間で面会や行事等の制限を皆様にお願ひしてまいりました。今後も感染拡大防止対策は行いつつ、ご入居者の生活をこれまで以上に良くするために工夫を凝らし実施していきたいと考えています。



編集後記

今号の特集は認知症バリアフリー宣言でした。改めて記事にすることで、当法人の認知症バリアフリー推進に向けての方針や方向性を「見える化」することができました。また、当法人が「DO FOR OTHERS」と5つの言葉を理念の下、宣言よりも先駆けて、福祉サービスを必要とする人々に届けてきた歴史をも実感しました。2023(令和5)年3月には新たな認知症ケアの拠点としてグループホーム高山ちどりもオープンいたします。

2025年には高齢者の約5人に1人が認知症になると予測されている中、目の前のご利用者にどう向き合っていくかと同時に、認知症の人を社会全体で支えていく仕組みづくりが必要だと思います。認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で普通に暮らし続けていけるよう、生活のあらゆる場面で障壁を減らし、認知症バリアフリー社会の機運を醸成するような取り組みを、今後も本誌でお伝え出来れば幸いです。

社会福祉法人 晋栄福祉会
『Chidori』17号
2023(令和5)年3月発行

編集・発行責任者 濱田 和則
発行所 社会福祉法人 晋栄福祉会
(法人連絡先)
〒571-0026
大阪府門真市北島町14番28号
社会福祉法人 晋栄福祉会
TEL (072) 881-8202
FAX (072) 881-9505
E-mail home@chidori.or.jp
http://www.chidori.or.jp/
採用HP http://www.chidori.or.jp/recruit_chidori/

社会福祉法人 晋栄福祉会 広報委員会
広報委員長 高田 幸代
(東中本保育所 所長)
広報委員 鶴賀 直土
(中山ちどり 課長)
上野 理生
(たかとりちどり保育園 園長)

編集担当 岩佐 俊英
(法人事務局 広報担当)

本誌記載の所属(肩書)は、
2023(令和5)年3月現在のものです。

広げようちどりの輪



テーマ 私の秘密の特技

周りにはあまり知られていない、あなたの秘密の特技を教えてください。



川面ちどり保育園
稲田 泰幸 (警備員)



北恩加島保育所
古田 礼子



智鳥保育園
宗像 泉美



走谷ちどり保育園
杉本 松美



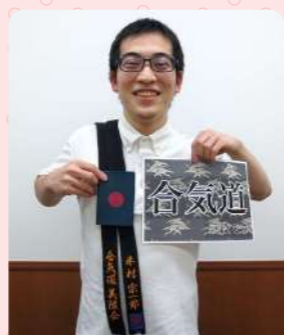
いちぶちどり保育園
原田 早紀



東野田ちどり保育園
山崎 詩絵里



宝塚ちどり
ハコバ・ジュリエン・ナゴル



萩の台ちどり
米村 宗一郎



デイサービス智鳥
池口 徹



神戸垂水ちどり
吉田 峰子



ケアホームちどり
長谷 実紀



中山ちどり
木村 有香 (作業療法士)

私の駆け出し時代



「ご縁とつながりに感謝」

川面ちどり保育園
園長 久保田ひろみ

1985(昭和60)年4月に新卒採用として智鳥保育園に入職させていただきました。7年目の先生と二人で3歳児クラスを担当。不器用であり気の利かない性格の私を先代の理事長先生、園長先生、先輩の先生方は気長に温かく見守り育ててくださいました。ピアノが苦手だったので、子どものお昼寝中に電子ピアノにヘッドフォンを差し込んで練習していたことを思い出します。

その後、智鳥保育園からは一旦離れましたが再びお世話になることに…。そこでは、教え子が二人も保育士として立派にお仕事をしていました。歴史のある保育園は、このように人がつながっていくものなのだなと感じました。新卒の時にご指導いただいた先輩の先生とは、年賀状のやり取りはしていましたが、智鳥保育園の新園舎が建った時に久しぶりにお会いしました。一気に30年前にタイムスリップ！ テニスやお食事に連れて行ってくださったなどの昔話に花が咲きました。

また、裏千家名誉師範のお茶の先生からは、常々「気働き(いわゆる語らずのうちに、相手の心を読みとって行動に移すこと)」の大切さを教わりました。

このように、私は智鳥保育園やそこで出会ったたくさんの方々とのご縁の中で、学び生かされているのだなと感謝の気持ちでいます。

川面ちどり保育園は、たくさんの保護者の方に支えられ、この4月には9年目を迎えます。まだまだ歴史は浅いですが、今、お仕事をされている先生たちにも、いつか自分と同じように素敵な再会やつながりを味わってほしいなと思っています。

わたしのパークフレーズ

たくさんの人と関わり、たくさんの喜びが溢れる反面、うまくいかないことや反省することも多い福祉の仕事。このコーナーでは、心に響いた言葉とそれにまつわるエピソードを紹介します。

今回のフレーズ 「迷ったら面白そうな方を選ぶ」

宝塚ちどり 部長 杉本 圭

仕事においても、プライベートにおいても選択に迷う場面は少なくありませんよね。そんな時、私は「迷ったら面白そうな方を選ぶ」という考えで選択することにしていきます。状況によっては選択の余地がない場合や時間の制約がある場合はこの限りではありませんが、面白そうな方を選んでみて、結果、面白いことが起これば単純にプラスになります。たとえ失敗したとしても、その経験が後々話のタネになったりして得るものがあるのでどちらにしろプラスだったと思うことができます。

自分の選択によって、人生がすこしだけ面白くなる。

困難なことでも面白そうだと思えば前向きに取り組める。

こうやって面白そうなことが起こらないかと探していると、思わず笑ってしまうような場面に遭遇する機会が増えた気がします。

